

絵本で見る台湾

日本の南に位置する台湾は、面積約3万6千平方キロメートルで九州よりやや小さく、人口は約2,316万人です。台湾の児童文学の歴史は20世紀初頭までさかのぼりますが、その活動は20世紀後半から活発化し、今日に至っています。台湾をもっと知るための絵本と、海外でも人気がある最近の台湾の絵本を展示しています。

自然からみる台湾

1)台湾地形傑作展：俯瞰19大地形奇観（台湾の地形傑作展：19の大きな地形奇観を俯瞰する） / 林俊全作, 黃崑謀繪, 遠流台湾館編 台北 遠流出版事業 2001.7 当館請求記号(Y2-AZ619)

火山、盆地、河川、溪谷、海岸など変化に富む風景を持つ台湾。台湾の地形について、それを成り立たせている地層などにも触れ、図とともに詳しく説明しています。

2)台湾森林共和国：認識6大森林王國（森林共和国台湾：6大森林王國を知る） / 郭城孟作, 陳一銘, 鍾燕貞繪, 遠流台湾館編 台北 遠流出版 2001.7 当館請求記号(Y11-AZ1037)

変化に富む地形を持つ台湾にはさまざまな樹木や植物が生育しています。臺灣の森林相、植物相について説明しています。

3)台湾鳥樂園：認識常見鳥類110（台湾鳥樂園：よく見られる鳥110を知る） / 袁孝維, 鄧子菁作, 王繼世繪, 遠流台湾館編 台北 遠流出版 2003.9 当館請求記号(Y11-AZ1036)

台湾にはさまざまな鳥類が住むとともに、渡り鳥などの多くの鳥類が飛来します。

台湾あちこち

台湾の各地を取り上げた絵本です。

（全般）

4)兔小弟遊臺灣（兔ちゃん、台湾を回る） / 林良文；仇桂芳圖 臺北 國語日報社 2000.10

当館請求記号(Y2-AZ5002)

月に住む兔がじっくり時間をかけて台湾を旅行してまわります。児童文学作家の林良の詩に絵が添えられ、各名所の概要説明、交通手段などが書かれています。

5)爸爸講古蹟：古蹟保存與維護（お父さんが語る古蹟：古蹟の保存と維持） / 李乾朗撰文・繪圖 臺北 行政院文化建設委員會 2001.9 当館請求記号(Y2-AZ622)

燕燕ちゃんのお父さんは大学の先生で、古い建築についてよく知っています。燕燕ちゃんの一家は古蹟を訪ねます。その時、お父さんがいろいろ説明してくれるのです・・・と、いう形式で、「台北淡水紅毛城」「高雄鳳山舊城」「板橋林家花園」など10の古蹟とその特徴、古蹟の修復技法などを説明しています。

（台北）

6)一日遊（一日遊覽） / 孫心瑜作 台北：信誼基金出版社 2008.4

当館請求記号(Y17-ch-AZ5485)

動物園の動物たちが、台北101ビル、民主記念館、総統府、台北駅、故宮博物館、天葉母野球場、紅毛城など台北とその近郊を見て回ります。

7)走,去迪化街買年貨（さあ、迪化街に正月用品を買いに行こう） / 朱秀芳文,陳麗雅圖 台北 青林國際出版 2001.12 当館請求記号(Y17-ch-AZ3462)

迪化街は台北市の西北にある問屋の集中している古い地域です。お正月が近づき、お爺さんは孫の阿瑞に正月用品を迪化街に買いに行こうと声をかけます。迪化街についた二人はまず土地神様の廟にお参りしてから、いろんな店を回ります。

（烏山頭）

8) 烏山頭水庫（うさんとうダム） / 施政廷文・圖 臺北 青林國際出版 2007.12 当館請求記号（Y17-ch-AZ5506）
烏山頭ダムは台南県官田郷にあります。20世紀の初めまでこの地域は水に恵まれない土地でした。この嘉南平原の農業灌漑を目的として1920年から10年をかけて建設されたのが烏山頭ダムです。現在、ダムの周りは自然公園になっています。本書の裏表紙にある銅像は設計者の日本人水利技師の八田與一のものであります。

（蘭嶼）

9) 小島上的貓頭鷹（小島のフクロウ） / 何華仁文圖 臺北 青林國際出版 2004.2 当館請求記号（Y17-ch-AZ5292）
南東沖にある周囲40kmの蘭嶼島が舞台です。ここで生まれたフクロウが飛ぶことをだんだんと覚え、まわりの生物に親しんでいく話です。巻末には蘭嶼に住む生物の簡単な解説が付されています。蘭嶼には少数民族の達悟（タオ）族も住んでいます。

（金門）

10) 風獅爺減肥記（風獅爺のダイエット記） / 徐建國圖；黃惠鈴文 金城（金門縣）金門縣政府文化局 2005.12
当館請求記号（Y17-ch-AZ5302）
風獅爺というのは、風の強い金門島一帯に建てられている魔除けの獅子像です（本書 p.18-19 参照）。一説には強風を鎮めるといふ願いもあると言われていています。主人公の獅子は太っている自分を何とかしようと思いますが、「この獅子、特別に可愛いわね」「心がひろく、体もゆったり」というのはこんな感じなんだね」という人々の声を聞いて、無理な減量をやめます。

台湾語で歌おう

台湾で話されている言語は、台湾語、北京語、客家語などです。台湾語は人口70%以上の人々の母語です。

11) 火金姑 紅田嬰：台語傳統兒歌集（蚩、赤とんぼ：台湾傳統童謡集） / 張杏如總編輯；曹俊彥 [ほか] 繪圖 臺北信誼基金出版社 1998.4
当館請求記号（YU81-AZ117）
台湾語の子守歌、遊戯歌、なぞなぞ歌、言葉遊び歌、暮らしの歌など台湾の伝統的な歌に絵と解説を添えています。

台湾原住民族を扱った絵本

17世紀ころから中国大陸の福建から台湾への移民が始まりましたが、それ以前から台湾に住んでいた人々を「原住民族」と呼び、現在14の民族が政府の原住民族として認定されています。台湾政府は原住民族の地位向上と文化保存等のために、日本の省庁にあたる行政院原住民族委員会を設けています。

泰雅（タイヤル）族 北部から中部にかけての山岳地域に住み、人口は約8万人。

12) 母親, 她束腰（母親、母のベルト） / 歐蜜・偉浪文字；阿邁・熙嵐繪圖；瑋瑋・瑪邵繪圖；黃榮泉譯 台中星出版 2001.1
当館請求記号（Y17-ch-AZ5492）
幼い頃、家は豊かではありませんでした。父は留守がちで、母が山の畑で仕事などをしながら子どもを育てていました。母は畑で昼になると弟や妹には乳を含ませ、僕にはご飯の代わりにお芋を焼いて食べさせます。そのとき、母はいつも自分のベルトを強く締直すのです。どうしてそんなことをするのか不思議でした。大人になってから、それは母が空腹をこらえて僕にたくさん食べさせるためだったことを知ります。タイヤル語と中国語併記。

阿美（アミ）族 東部、花蓮県、台東県、屏東県、また中央山脈・海岸山脈の溪谷地域に住み、人口は約15万人。

13) 春神跳舞的森林(春神の舞い踊る森林)7 / 嚴淑女文；張又然圖 臺北 格林文化 2003.3
当館請求記号（Y17-ch-AZ5315）
阿地とお父さんは阿里山に行きます。阿地は阿里山で生まれたおばあちゃんにもらった桜の花びらを持っています。阿里山に着くと、その花びらは舞い上がり阿地を動物たちのところに連れて行きます。動物たちはおばあちゃんの幼い頃の友達でした。動物たちは、阿地に桜の花の精が病気で春が来ないと訴えます。阿地は動物に連れられ、桜の花の精を助けに行きます。桜の精は元気になり、桜の花とともに春がやってきました。

卑南（ブユマ）族 主に東南部の台東平原西側の山沿いと台東南側の川沿いに住み、人口は約9千人。

14) 姨公公 (姨おじいちゃん) / 孫大川文 ; 簡滄榕圖 台北 遠流出版 2003.6 当館請求記号 (Y17-ch-AZ5304)
著者の小さな頃の思い出です。おじいちゃんは村の長老でした。ブユマ語だけでなく、ほかの少数民族の言葉もできて部族間の争いを回避したこともあります。おじいちゃんは時に狩りにでかけ獲物をとってきます。くつろぐ時は庭の籐椅子で煙草を吸ったり、歌を歌ったり、時に眠ったりします。ブユマ語で僕にいろんなことを教えてくれました。著者は、現在、行政院民族委員会の委員を務めています。

賽夏（サイシャット）族 主に西武の新竹県と苗栗県に住み、人口は約5千人。

15) 懶人變猴子 : 賽夏族的故事 (怠けものは猿になる : サイシャット族の民話) / 李昉文 ; 王家珠圖 台北 遠流出版公司 2006.4 当館請求記号 (YU81-AZ127)
昔、サイシャット族にとっても怠けものの若者がいました。あんまり働かないので老人が怒って、その尻に棒を入れると、その棒がしっぽとなり若者は猿に変わってしまいました。蚊は若者を笑い、叩き潰されます。若者は他の動物と一緒に神様のところに行きます。猿は働かず、人間の畑から餌を取りなさいと言われますが、その結果、人間にいつも追われるようになります。蚊は仲間を若者に殺されたことを神さまに訴えますが、十分に話す前に神様が寝てしまいます。そこで蚊は今でもぶつぶつと訴えているのです。

合集

16) 矮靈祭 (小人の慰霊祭) / 薇薇夫人文 ; 唐壽南圖 台北 臺灣麥克 2006.3 当館請求記号 (Y17-ch-AZ5529)
表題の賽夏 (サイシャット) 族の民話のほかに、布農 (ブヌン) 族「大洪水」、雅美 (ヤミ) 族「山芋人」、魯凱 (ルカイ) 族「巴嫩公主」が収録されています。なお、この「臺灣童話」シリーズの『射日』(当館請求記号 Y17-AZ5530) には、泰雅族、阿美族、卑南族の民話が収録されています。

台湾民話・伝説

17) 李田螺 (田螺売りの李さん) / 陳怡真文, 楊翠玉圖 台北 遠流出版事業 [出版年不明] 当館請求記号 (Y17-ch-AZ2126)
苗栗県の民話です。お金持の父親は、「人間は心が大事、一生懸命働くことが大事で、貧乏は関係ありません」と言う末娘を貧しい田螺売りの李さんに嫁がせます。田螺が一粒も取れなかった日、李さんは兎を見つけて追いかけて、「烏金石」を見つけてお金持になり、末娘の父親の誕生日に、土地を買い取って父親を驚かせます。

18) 台湾民間故事(台湾民話) / 貫如編, 曹俊彦 [等] 插圖 [台北] 人類文化事業 1998.5 当館請求記号 (Y17-ch-AZ457)
基隆の「白い米の出る不思議な洞穴」、高雄の「半屏山の伝説」、阿里山の「美しい姉妹の伝説」、出典地不明の「塩の出る石臼」の4話が収録されています。「塩の出る石臼」は、日本にある民話「海の水はなぜ辛い」とほぼ同じ筋です。

19) 風鼓鳥 / 鄭清文文 ; 艾瑞圖 台北 臺灣麥克 2006.3 当館請求記号 (Y17-ch-AZ5526)
台湾各地の民話6編が収録されています。

人々・時代

20) 大頭仔生後生 : 台湾創作兒歌 (大頭くん子どもが生まれた : 台湾の創作童謡) / 簡上仁作, 曹俊彦圖 台北 青林國際出版 2001.7 当館請求記号 (Y17-ch-AZ3460)
若い大頭くんは縁があって結婚します。やがて子ども生まれます。奥さんと二人でいろんな商売をして生活し、だんだんと年をとります。大頭くんの子どもの大きくなります。とってもいい青年になりました。唄って楽しむ絵本です。

21) 想念 (思い出) / 陳致元文・圖 台北 信誼基金出版社 2000.5 当館請求記号 (Y17-ch-AZ3329)
写真の中の遠い懐かしい思い出。いつのまにか、そのなかに入り込んでいきます。柔らかな色彩で描かれた絵だけの絵本です。

22) 外婆住在香水村 (おばあちゃんは香水村に住んでいる) / 方素珍文 ; 江彬如圖 台北 青林國際出版 2007.5
当館請求記号 (Y17- ch-AZ5497)

おばあさんの具合がよくないので、阿力とお母さんは香水村に住むおばあさんを訪ねます。おばあさんに家から戻って何日か経ったあと、お母さんがおばあちゃんはもうあの香水村ではなく天の香水村に行ってしまったといいます。

23) 20 個銅板 (二十枚の銅貨) / 陳建祥文・圖 台北 格林文化事業 2008.10 当館請求記号 (Y17- ch-AZ6530)

子どもの頃、家は豊かではなく、食べるものも十分ではありませんでした。弟と私は饅頭を食いたいと思ってあちこちから 20 枚の銅貨をかき集めてやっと一つ買うことができました。饅頭売りのお爺さんは、私たちの貧しさを察したのでしょうか。家に壊れた饅頭があるからそれを取りに来るようにいいます。そうしたことが何回かありました。今、大人になった私は、あの優しいお爺さんを想いながら老人関連の施設で働いています。

24) 受傷的天使 (傷ついた天使) / 馬雅文・圖 台北 信誼基金出版社, 上誼文化實業 2005.4

当館請求記号 (Y17-ch-AZ5498)

妹は他の子とは違っていています。授業にうまくついていけないし、他の子のできることができなかつたりします。また、他の子どもたちにいじめられたりもします。私はお母さんに「どうして妹は私たちとは違うの?」と訊きます。お母さんは「子どもはね、この世に来るまでは、みんな天上で天使だったの。でも、あの子はここに来る途中で怪我をしてしまったの。だから、私たちはあの子に新しい羽根を伸ばしてあげなくてはいけないの。あの子が自分で飛べるようにね」と言います。

25) 那一年, 我們去看電影 (あの年、私たちは映画を見に行った) / 郭璧如文・圖 台北 信誼基金出版社 2008.4

当館請求記号 (Y17- ch-AZ6541)

小さい頃の思い出です。学校で映画に行くときには長い道のりを歩かなければならないので、水筒が必要です。でも、家には水筒が一つしかないの、いつも妹と私の取り合いになります。いやな妹。でも、映画を見に行く週、妹は怪我をしてしまいます。みんなが並んで映画館へと向かうとき、みんなを見送って手を振っている女の子がいました。妹です。見ていた私は映画館に行くのを止め、妹と一緒に家に帰ることにしました。

26) 司機爺爺 (運転手のお爺さん) / 何桂華文 ; 廖健宏圖 臺北 國語日報社 2005.11

当館請求記号 (Y17- ch-AZ5027)

今日は年をとったバス運転手のお爺さんの最後の勤務の日です。いつものように運転して回りますが、なんと雨が雪になりバスは途中で止まってしまいます。バス運転手のお爺さんは乗客とともにその場所で一夜を明かします。翌日はきれいに晴れてバスを動かすことができました。駅に着いた乗客からは「よかったわ」という感謝の言葉が出ました。温暖な臺灣では雪が降ることはほとんどありませんが、花蓮県と南投県の境界に位置する海拔 3,417 メートルの合歡山では冬に雪が見られます。この話の舞台はこの近辺と思われます。

日常生活

27) 奉茶 (お茶をどうぞ) / 劉伯樂文・圖 台北 青林國際出版 2001.5 当館請求記号 (Y17- ch-AZ3458)

土地神さまは年に一回、天帝さまのところに自分の土地とそこに住む人々についての報告を行わねばなりません。土地神さまは一般人の格好をして自分の土地を見て回ります。そこで「奉茶」と書かれた茶の無料サービス台があちこちにあるのを見て感動します。土地神さまは、お土産は「奉茶」にして、それについて報告することにします。他の神さまたちがいろいろ珍しいものを持ってくる中で、天帝さまはこの「奉茶」とその習慣がすっかり気に入ります。そして、天にも「奉茶」の台ができました。

28) 家有怪物 (家に怪物がいる) / 余麗婷文・圖 臺北 : 國語日報社 2001.10 当館請求記号 (Y17- ch-AZ5047)

怒りっぽい家族です。両親も兄も怒ると激しい言葉を投げ合います。ある日、また喧嘩が始まりました。すると飼い犬のクロがその言葉を食べてだんだんと大きくなり、最後には巨大な怪物になりました。食べた言葉を掃除機で取り出そうとしても取り出せないほどの量があります。大きくなったクロを怖がって、家族は小声で穏やかに話そうになりました。今はクロもふつうの大きさに戻りました。

29) 媽媽, 買綠豆! (お母さん、緑豆を買って!) / 曾陽晴文 ; 萬華國圖 台北 信誼基金出版社 1988.6

当館請求記号 (Y17- ch-AZ5322)

阿宝はお母さんと買物に行くのが好きです。買物に行くといつも「緑豆を買って」と言います。家に帰ると自分も手伝って緑豆を煮ます。煮えたおいしい緑豆、まずそれを食べて、緑豆シャーベットも作ります。阿宝は緑豆が一粒落ちているのを見つけました。お母さんと一緒に植えてみたらしばらくして芽が出ました。阿宝は緑豆が大好きです。

30)愛吃青菜的鱷魚（野菜の好きな鱷） / 湯姆牛文・圖 台北 信誼基金出版社 2003.4

当館請求記号 (Y17- ch-AZ5310)

毎日、畑で働いているお百姓さんがある時、川でちいさな鱷を見つけました。それから鱷はお百姓さんと一緒に働くようになります。耕した畑にやがて野菜ができました。鱷は野菜を食べて大きくなりました。ある時、町にお医者さんが健康診断に来ました。野菜を食べて育った鱷は健康そのもの。これを知ったお母さんたちは子どもたちに野菜を食べさせます。そしてみな健康になりました。野菜が苦手な子どもに野菜を食べてもらうための本のようにです。

31)劍獅出巡（劍獅おでかけ） / 劉如桂文・圖 台北 信誼基金出版社 2008.4 当館請求記号 (Y17- ch-AZ5516)

劍獅は剣を口にくわえた獅子で、各家の入口に魔除けとして飾られているものです。ある暑い日、あまりの暑さに転寝をしてしまったある劍獅が口にくわえた剣をうっかり落としてしまいました。気が付くと剣がなくなっていた劍獅は大慌て、仲間呼びかけて、みんなであちこち探し回ります。驚いたのは人間たちです。家の入口にあった劍獅がいなくなっている！剣を探しまくった劍獅たちは、最後に媽祖娘娘の助けを借りて剣を見つけることができました。劍獅はそれぞれ元の場所に戻り一件落着となりました。

32)我和我家附近的野狗們（僕と僕の家周りの野良犬たち） / 賴馬文・圖 台北 信誼基金出版社 1997.11

当館請求記号 (Y17-ch-AZ2125)

家の周りには野良犬がいっぱい。犬のおしっこやうんちの匂いで大変、その上、野良犬に襲われる人さえいる始末です。しかし、ある日、捕獲隊の人が来て野良犬はいなくなりました。ところがそのあと可愛い子犬がいることがわかり主人公の少年はその犬を飼いたいと思います。お父さんは飼い主としてやらなければならないことができるかを少年に確認します。

33)我們家的長板凳（私たちの家の長い腰掛） / 陳慧縝文・圖 臺北 國語日報社 2003.10

当館請求記号 (Y17- ch-AZ5040)

私たちの家に長い腰掛があります。お兄ちゃんはこので勉強を、お父さんはここで作業を、私は舞台代わりに、お母さんはお供え台に、お爺ちゃんはお昼寝に、お月見の時はここで月を見たりします。そのほかにもいろいろな用途に使われます。家になくてはならないものです。

幾米（ジミー）現象

今、台湾以外の国で最も知られている台湾の絵本作家は、幾米（ジミー・リャオ、本名：廖福彬）でしょう。1998年に『森林裡的秘密（森のなかの秘密）』『微笑的鱼（ほほえむ魚）』を発表し、台湾に大人の絵本ブームを巻き起こしました。現在、ジミーの作品は十数か国で翻訳されるとともに、CD、映画、舞台上演もされています。またキャラクターを使ったグッズも売り出されており、あまりの人気ぶりに「幾米現象」などという言葉も生まれました。

34) 向左走・向右走（彼女は左に、彼は右に） / 幾米文・圖 台北 格林文化事業 1999.2

当館請求記号 (Y17-ch-AZ3336)

二人は同じアパートに住んでいますが、出口でいつも左と右に出ってしまうので会うことはありません。ある日、二人は公園で偶然出会い、互いに好意を持ち、電話番号を交換します。しかし、雨に濡れたメモ用紙で電話番号は読めなくなり連絡ができません。季節が移り、二人は会うことのないまま引っ越していきます。

35)地下鐵：Sound of colors（地下鉄：色のひびき） / 幾米著 台北 大塊文化出版 2001.1

当館請求記号 (Y17- ch-AZ3337)

失明した少女は15歳の誕生日に地下鉄に乗ります。悩み苦しんだ日々から一步踏み出し、いろんな色が、今、音と匂いになって感じられることに気がつきます。主人公の思いがさまざまな絵とともに語られます。「この世と別れてもいいと思っていた 世界の美しさに気づかぬうちは」「昨日の悲しみは忘れてしまった 忘れるくらいの悲しみだった」「生きていくことは いくつもの驚き」「生きていることは いくつもの 喜び」「気づかずにいたけれど そばにいてくれた すべての人に『ありがとう』を」などの言葉にうなずき、励まされます。

36)履歴表：The Private Me(私自身の私)幾米著 台北 大塊文化出版 2004

(未整理)

127人の架空の人々が似顔絵とともに職業、名前、年齢、星座、血液型、夢、関心事、今まで一番嬉しかったこと、悲しかったこと、大変だったことを記し、自分を語っています。奇妙で愛すべき人間という存在についての本です。

37)藍石頭：The Blue Stone(青い石)/ 幾米著 台北 大塊文化出版，2004 (未整理)
遠い遠い昔からの地球のさまざまな活動の結果、大きな青い石が生まれました。ある日、人間が来てその石を二つに割って持って行きます。石はさまざまな人々に会い、さまざまに形を変えられます。そして最後に元の場所に戻ります。長い長い時をめぐるお話です。

話題の絵本

38)Guji-guji (ぐじぐじ) / 陳致元文・圖 台北 信誼基金出版社 2003.4 当館請求記号 (YU81-AZ125)
アヒルの巣に大きな卵が転がってきました。アヒルのお母さんは他の卵と一緒に温めます。やがて卵がかえるとアヒルとは似ても似つかぬ生き物が出て来ました。いつもぐじぐじと声をあげるので、「ぐじぐじ」と呼ばれます。ある日、鰐がぐじぐじを見つけ、お前はアヒルではなくて、自分たちの仲間の鰐だ、アヒルはおいしい動物だ、一緒にアヒルを食べようと誘います。ぐじぐじは悩みますが、自分は鰐ではなくて、鰐アヒルとして生きていくと決めます。そして鰐をやっつけます。英語、日本語、韓国語、フランス語に訳されている人気絵本です。

39)小魚散歩(ユウちゃんの散歩) / 陳致元文・圖 臺北] 信誼基金出版社 2001.4 当館請求記号 (Y17- ch-AZ3326)
「遊びに行っている？」と訊いたユウちゃんに、お父さんが「今日はお母さんが残業だから、お父さんが卵炒飯を作る、だからついでに卵を買ってきて」と頼みます。外に出ると、外には面白いことがいっぱいあります。ユウちゃんはいろんなことを想像してそとを歩きます、お店に寄って、また散歩、やっとうちに着きました。

40)水果們的晚會(果物たちのパーティー) / 楊喚文；黃本蕊圖 新竹 和英出版社 2004 当館請求記号 (Y17-ch-AZ5524)
果物屋さんの窓から月の光が射し込み、夜中の十二時をまわった頃、果物たちが目をさまし、それぞれの果物の特徴を生かした踊りや歌が始まります。虫たちも加わって大騒ぎ。やがて朝になり太陽が上がり、パーティーはお開きになります。

41)我變成一隻噴火龍了(僕は火を噴く龍になっちゃった) / 賴馬文. 圖 台北 國語日報社 1996 . 3 当館請求記号 (Y17- ch-AZ2117)
おこりんぼさんの血を吸うのが好きな蚊がいました。怪獣の国の阿古はとてもおこりんぼです。蚊が刺したら、阿古は怒って火を噴きました。家が焼ける、物も焼ける、隣の人も火傷です。みんなは迷惑。でもどうにもなりません。困り果てた阿古は泣き出します。泣いて、泣いて、泣いたら、あら不思議、火もおさまりました。阿古もみんなも大喜び。やれやれ、おこりんぼさんの好きな蚊はまた新たな獲物を見つけに去っていきます。(日本語訳「おこりんぼうのアングリ」 当館請求記号 Y18-N07-H37)

42)故事屋的故事(お話し屋さんのお話) / 張大光文；岳宣圖 台北：格林文化事業 2006.6 当館請求記号 (Y17- ch-AZ5503)
張さんは小さい頃からお話を聞くのが好きでした。大きくなった張さんはお父さんがしてくれたのと同じように子どもにお話を聞かせます。話しているうちに張さんは、大人も子どもも楽しめる「お話し屋さん」を開こうと思いつきます。みんな張さんはおかしくなったと言いますが、張さんはあきらめずお話し屋さんを開きます。この張さんは著者の張さんで、現在、お話し屋さんをやっています。各地に支店ができる繁盛ぶりです。

43) 我睡不著(眠れない) / 蔡兆倫文・圖 臺北：國語日報社 2001.10 当館請求記号 (Y17- ch-AZ5043)
お母さんは「寝なさい」というけれど、眠れません。そして、いろんなことをやり放題、普段できないこともやって楽しい・・・と、思っているうちに、またお母さんの声が・・・「起きて学校に行くのよ」。まだ眠いのに。